

デリバリー向けのサプライチェーン構築など目指す

## Globridge など7社が「日本デリバリー協会」設立

デリバリー事業を展開する Globridge、TGal、バーチャルレストラン、REARS、エフ・エフ・アルファ、X Kitchen、Wiaas の7社は25日、プレイヤーとサプライヤー、プラットフォーマーなどが協力してデリバリー市場の拡大・発展を目指す「一般社団法人日本デリバリー協会」を立ち上げた。理事長には Globridge の大塚誠社長が就任した。

デリバリー市場が急拡大した一方、さまざまな問題も浮き彫りとなっている。そこで同協会では、これらの課題に対してデリバリー業界のルール作りや新たなサプライチェーン構築など、これまでにない仕組みを作り広めることを目指す。そのため、「日本のデリバリービジネスの『顧客満足』『安心安全』『市場拡大』を共に実現する」を理念に掲げ、行動指針として「消費者の安心安全を守るためのガイドラインやルール運用の仕組み化」「デリバリー商品の QSSC(Q 品質、S スピード、S サービス、C クレンリネス)の基準設定、遵守の仕組み化」「デリバリー市場成長のための規制緩和、行政特区による各種トライアル」「日本食文化デリバリーの世界輸出」の4点を示した。

大塚理事長は、都内で開かれたキックオフ会合で「デリバリーは単なる配達代行ではなく、何百年間実現できなかった『いつでも・どこでも・あらゆるメニューを作りたい』という根源的欲求を実現したサービス。しかし現在は小売りと外食のサプライチェーンしかないため最適化できていない。デリバリー向けのサプライチェーンを世界で最初に構築し、この仕組みを海外にも輸出していきたい」と想いを語った。

新たなサプライチェーンとは、ミールキットのようなデリバリー向けセット食材や塩茹でしてカットした野菜など半調理した素材などを流通させることで、すでに全国の卸売業者や中小の食品メーカーと協力して実現へと動き始めている。同協会では、理念に共感する飲食店や卸、メーカー、プラットフォーマーなどの会員を年会費1万2000円(初年度)で募りながら、さらなるデリバリー市場拡大を目指す。

◆アサヒビール、ビールの瓶・樽製品などを10月から値上げ◆ アサヒビールは、10月1日出荷分からビールなどの瓶・樽詰と焼酎、輸入ワインなどを値上げする。主な対象商品は〈スーパードライ〉(瓶・樽)などのビール類、〈アサヒスタイルフリー生〉〈クリアアサヒ〉(樽)などの発泡酒と新ジャンル、〈樽ハイ倶楽部〉〈ブラックニッカ クリア 樽詰めハイボール〉などの樽詰酒類、〈大五郎〉〈かのか〉などの焼酎、〈ルイ・ラトゥール〉などの輸入ワイン。原材料価格や容器包装資材、エネルギー・物流費などの高騰によるもの。

●飲食店向け食材・厨房機器などメーカー情報・IT関連サービス記事随時更新中！● 本紙「外食日報」をはじめとした外食産業新聞社のメディアでは、飲食店のためのメーカー情報マガジンとして運営している情報サイト「FOOD FUN!」において、業務用製品や IT 関連サービスなどの情報を随時掲載しております。「FOOD FUN!」における最新の情報は左記の QR コードでチェックを！



一般社団法人日本デリバリー協会  
理事長 大塚誠



デリバリーテクノロジーで日本の未来を革新する

①一般社団法人日本デリバリー協会の理事長に就任した Globridge・大塚誠社長②同協会ホームページ③ホームページのQRコード



飲食店向けメーカー・サービス情報サイト「FOOD FUN!」